



令和元年 11 月 22 日 柿崎小学校発行

## 「自分も相手も大切に思う気持ち」を育てる

校長 上野 宏

毎年、12月4日から12月10日までは、法務省と全国人権擁護委員連合会が定めた人権週間です。上越市ではこれに先駆け、11月を人権強調月間としていることから、学校でも授業実践や中学校区「ハッピー仲間集会」（いじめ見逃しゼロスクール集会）への参加、生活朝会での人権講話などによる指導を行い、「自分も相手も大切に思う気持ち」を育てようとしています。

今年、海っ子音楽会に向けた練習を見てきて、この「自分も相手も大切に思う気持ち」は、音楽をつくる過程でも育てることができると思いました。それは、自分の演奏をしっかりと行いながら、友達の演奏を聴き、互いに合わせる気持ちをもつ、この気持ちを高めていかなければ一体感のある演奏はできないからです。

11月9日に行った海っ子音楽会のすべての学年発表と音楽部の発表は、一体感を感じられる感動的なものでした。練習の過程で、自分の演奏と友達の演奏を互いに大切に思い、聴き合う気持ちを高めながら取り組んできたからこそ、できあがった演奏であったと思います。

さらに、15日には、上越市小・中学校合同音楽祭が行われました。今年で最後となる音楽祭には、6年生37名が出演しました。上越文化会館という大舞台、しかもトップバッターということで、6年生の緊張度も最高潮に達していました。太鼓による演奏開始からの4分間、子どもたちの音は完全に一つとなり、見事な演奏を披露しました。終了とともに、喝采の拍手が鳴り響く文化会館大ホール。私は、全身で感激を味わうとともに、このような一体感ある音楽をつくりあげた6年生を誇らしく思いました。まさに6年生が、自分と友達を大切に思う気持ちを高めながら、音楽づくりをしてきた成果です。

「自分と友達を大切に思う気持ち」を育てるような人権教育は、すべての教育活動の基盤として大切な教育です。これからもいろいろな機会を通して育てていきたいと考えています。

